

目次

【2019年 聖書講筵レジュメ（配付資料等）】

2019年

2019年4月「聖書を生きる、キリストを生きる」（キリスト道講演会）

2019年4月6日（奈良）



キリスト道講演会レジュメ

2019年4月 「聖書を生きる、キリストを生きる」

2019年4月6日(奈良)

《講師の言葉》

聖書は、現代人が見失ってしまった異次元の世界(神の霊界・実在界)を指し示す不思議な書です。そして、聖書における「神の言葉」は神から人間に贈られた「無形の宝」であり、聖書は「真の生命^{いのち}」を与える「生命の書^{いのち}」です。

キリストは、

「神は霊なれば、拝する者も霊と真^{まこと}とをもて拝すべきなり」

「人の生くるはパンのみに由るにあらず、神の口より出づる凡ての言に由る」

「活すものは霊なり、肉は益する所なし、わが汝らに語りし言は、霊なり、生

命なり」

と語られました。私たちは、この角度から聖書を読み、「聖書を生きる、キリストを生きる」日々を送りたいと願っています。

Ⅰ 新約聖書(福音書)におけるイエス・キリストの伝道の特色は、

(1) 終末の迫りの中で語られていること

「時は満てり、神の国は近づけり、汝ら悔い改めて福音を信ぜよ」(マルコ

1:15)

であった。神の国の到来、キリストの再臨のことが、マタイ伝24章〜25章で語られている。

(2) 天の次元からの語りかけと実証(徴)であること。

罪の赦しと病の癒し(詩篇103篇2〜5節参照)

死の克服、永遠の生命の実証と約束…ナインの若者の蘇生(ルカ7:11〜17)、ヤ

イロの娘の蘇生(マルコ5:21〜43)、マルタ、マリヤの兄弟ラザロの蘇生(ヨハネ

11:1〜44)

人は、この(1)(2)に示された「天の次元」に生きるべきことを示された。

① ニコデモとの対話において、人は新たに(上より・天より)生まれなければ、

神の国に入ることが出来ないことを示された。生まれながらの人間(地に属する者

「肉」なる人)は、そのままでは、神の国を見ることも、神の国に入ること

出来ないことを諭された(ヨハネ伝3章)。また、人を生かすものは「霊」であって、「肉」



は役立たない、と(同6・63)。此の場合の「肉」は自己中心の生き方、「霊」は神中心の生き方を指す。

②「天の次元」に生きる生き方の一端は、マタイ5・43〜48、同6・19〜34に示されている。

「²⁰汝ら、宝を天に積み……²⁴神と富とに兼ね仕える事は出来ない。……²⁵何を食らい、何を飲まんと生命のことを思い煩い、何を着んと体のことを思い煩うな。……³²汝らの天の父は、凡てこれらの物の汝らに必要なを知り給うなり。³³まず神の国と神の義とを求めよ、さらば凡てこれらの物は汝らに加えられるべし。³⁴この故に明日の^{あす}ことを思い煩うな、明日は明日みずから思い煩わん。一日の苦勞は一日にて足れり。」(マタイ6・20〜34)

これらの言葉の背後に在るのは、神に対する絶対的な信頼である。

イエスの神信頼の姿は、

荒野における試み(マタイ4・1〜11、ルカ4・1〜13)、

湖上で眠り給うイエス(マタイ8・23〜27、マルコ4・35〜41、ルカ8・22〜25)、

最終的には、

ゲッセマネの祈り(マタイ26・36〜46、マルコ14・32〜42、ルカ22・39〜46)

において示されている。

II 我々の生き方の指針

イエスの十字架上の死、復活、昇天、聖霊としての降臨・内住の事態は、我々をして、神の子としての「新生」を体験した者として、神・キリストの御心を第一として生きる生き方、言い換えれば、わが身において、その生き方において、「神・キリストの栄光の顯れんこと」との祈りに生きる者となった(そのように変えられた)。

パウロがガラテヤ書2章20節で告白しているように、

「我、主と偕に十字架せられたり。もはや、我生くるに非ず、キリスト(御霊

のキリスト)我が内に在りて生き給うなり」(ガラテヤ2・20)

の心で生きる。日々、聖書、とくにキリストの言葉を食物として生きる。

「汝ら、世に在りては患難^{なやみ}あり、されど、雄々しかれ、我すでに世に勝てり」

との主イエス・キリストの励ましと御力を頂いて、「信・愛・望」(コリント前書13章)に生きる。たとえ、肉体は滅びても、滅びる事の無い「永遠の生命」「霊のいのち」を賜わっているから、どんな事態や逆境に遭っても屈しない(コリント後書4・7〜18)。

我々の霊的食物は、キリストの御言葉である。まことに、

「人が生きるのは、パンのみによるに非ず、神・キリストの御口から出る一つ

ひとつの御言葉による。」



聖書は、「この世は悪しき世である」と宣告している。自己中心、神を冒瀆するような精神が跋扈^{ぼっこ}している。だから、

「誰でも私（イエス）に従って来たいと思う者は、己を棄て、日々己が十字架を負って、私（イエス）に従って来るように！」

と諭された。

「聖書を生きる、キリストを生きる」。これこそが、人としてのまことの道であり、まことの生き方である。

「我は道なり、真理^{まこと}なり、命なり」

と宣言しておられる主イエス・キリストに従って、キリストを生きる生き方こそが、永遠の生命を賜わった者として、ふさわしい生き方である。

